

問2. 3年間の取り組みの中で、重点的に取り組んだことは何ですか？下記に御記入ください。

朝和小学区、柳本小学校区にひびきふれあいサロン長柄、福住校区、山の辺校区、櫛本校区にひびきふれあいサロン滝本、前栽校区、二階堂校区、井戸堂校区にひびきふれあいサロン前栽を開設致しました。また、平成24年度には、柳本校区にひびきふれあいサロン柳本を開設し、ふれあいサロン長柄、ふれあいサロン柳本において、地域包括支援センターのランチを開設し総合相談事業を実施致しました。(相談件数…168件、訪問実施件数815件)
また、各ふれあいサロンでは、ふれあいサロンDAYとして1食400円の薬膳料理昼食会や各種クラブ活動などの実施を各サロンでそれぞれ実施しました。長柄…計48回 滝本…計32回 前栽…9回 (平成24年3月末) 延べ830名利用
また、市内スーパーへの送迎や店内での支援等として、買い物支援を実施致しました。(無料)長柄…32回 滝本…28回 前栽…7回 (平成24年3月末) 延べ437名利用
病院への付き添い支援として、1回2時間まで、病院までの送迎や院内の付き添い、診察時の付き添い等の支援を実施しました。計16回 (平成24年3月末) 延べ18名利用
ポヌール事業として、旧跡、名所を訪ね、その地域のグルメを楽しんでいただく、学び・グルメツアーを実施しました。計11回 延べ68名が利用
自主財源作りでは、奈良県共同募金会のハートフルベンダー自動販売機型募金箱をひびきの郷1F、(有)ハヤシの2か所に設置しました。また、毎月11日に実施される、イオン黄色いレシートキャンペーンへ参加させていただきました。
以上の内容は、平成24年度以降も継続的に実施させていただいております。

問3. 下記の項目について、新規実施市町村へのアドバイスをお願いします。(複数回答可)

ア. ゾーンの設定の仕方(どのような地域特性に配慮して決めたか、規模)

天理市は人口、約6万8千人、高齢化率、20.5%であるが、小学校区で高齢化率が高い地域として朝和校区(高齢化率22.3%)柳本校区(27.5%)を1ゾーンとして設定し、ひびきふれあいサロン長柄を開設しました。また、福住校区(39.4%)や山の辺校区、櫛本校区において、限界集落となりつつある地域には、ひびきふれあいサロン滝本、また前栽校区、井戸堂校区、二階堂校区などの若年世代の密集地には、ひびきふれあいサロン前栽を開設し、それぞれ、在宅介護支援センターの職員(社会福祉士、精神保健福祉士)や生活介護支援サポーターが訪問員として、民生委員と連携を取りながら、訪問活動などを実施しました。

イ. 部局内の連携の仕方

支援の担い手である、生活介護支援サポーターの養成を天理市介護福祉課と連携し、町から町への広報に折り込みや記事の掲載をしていただきました。また、安心生活創造事業の展開において、ふれあいサロン開所式、フリーマーケットの開催、生活介護支援サポーター祭りの開催、安心生活創造事業ひびき募金協議会や地域運営推進会議での開催等に出席していただき、連携を図りました。

ウ. 関係機関、民間事業者との連携の仕方

民生委員協議会への出席、介護支援専門員勉強会での事業説明、自治会、高齢者学級、長寿会、青年会議所、ライオンズクラブ等の任意団体等の関係機関との地域運営推進会議や安心生活創造事業ひびき募金協議会の開催等で連携を図る。

エ. 対象者・ニーズの把握のための住民アンケートの内容

天理市より提供いただいた、65歳以上の独居高齢者の住民基本台帳を基に、在宅介護支援センターの職員(社会福祉士、精神保健福祉士)が民生委員と連携し個別に実態把握調査を実施し、ニーズの把握に努め、その後、生活介護支援サポーターが訪問員となり、定期的な見守り活動、ニーズ調査等を実施しました。

また、天理市高齢福祉係と協力し、救急医療情報キットを独居の世帯や高齢者世帯等の対象者に配布し、これまでひびき在宅介護支援センターでは406世帯に配布し、その他、天理市全域で取り組んでおり、合計約600世帯の配布しております。

オ. 基盤支援対象者台帳、マップの作成の仕方

在宅介護支援センターの職員及び、生活介護支援サポーターが訪問し実態把握調査を行った情報を、一人暮らし世帯等見守り調査表(アクセス)にまとめ、各小学校区毎に独居の高齢者、独居の障害者、その他支援を必要とする方、民生委員、自治会長、病院、商店、スーパー、避難場所(公民館や小学校等)等を色分けしてマップ作成をしました。

カ. 個人情報の取り扱い方

訪問員として登録した生活介護支援サポーターは、個人情報およびその他の機密保持についての誓約書を記入していただき、利用者の方々に対する活動以外の目的には使用しないよう個人情報の取り扱いについて徹底を図りました。

キ. 訪問員の養成のノウハウ

平成21年度より年6回、計19回の生活介護支援サポーター養成講座を開催し、176名(平成24年10月12日現在)の修了者を養成しました。各ゾーンにおけるふれあいサロンに生活介護支援サポーターがボランティア(一部有償)として活動しています。活動においては、各ふれあいサロンでは、毎月1回、理事長による研修会を開催し、今後の福祉等の動向などについて学んでいただいている。

ク. 自主財源確保のためのアイデア

天理市、民生委員、区長、町内会、長寿会、青年会議所、ライオンズクラブ等の任意団体、在宅介護支援センター、地域包括支援センターの各代表者を委員として構成し、安心生活創造事業ひびき募金協議会を立ち上げ自主財源確保に向けての意見をいただき、これまでに4回の会議を開催しています。奈良県共同募金会、自動販売機型募金箱を2カ所に設置、イオン黄色いレシートキャンペーンの協力により助成をいただきながら、今後は、市民を対象に1コイン寄付や、高等学校への募金の呼びかけなどを計画しています。

ケ. その他

※ このアンケートは人工規模別分科会のテーマ決定、参加希望の聴取及び意見交換等のための資料としても使用(公開)します。

※ 分科会への参加希望の聴取につきましてはテーマが決定し次第お知らせいたします。

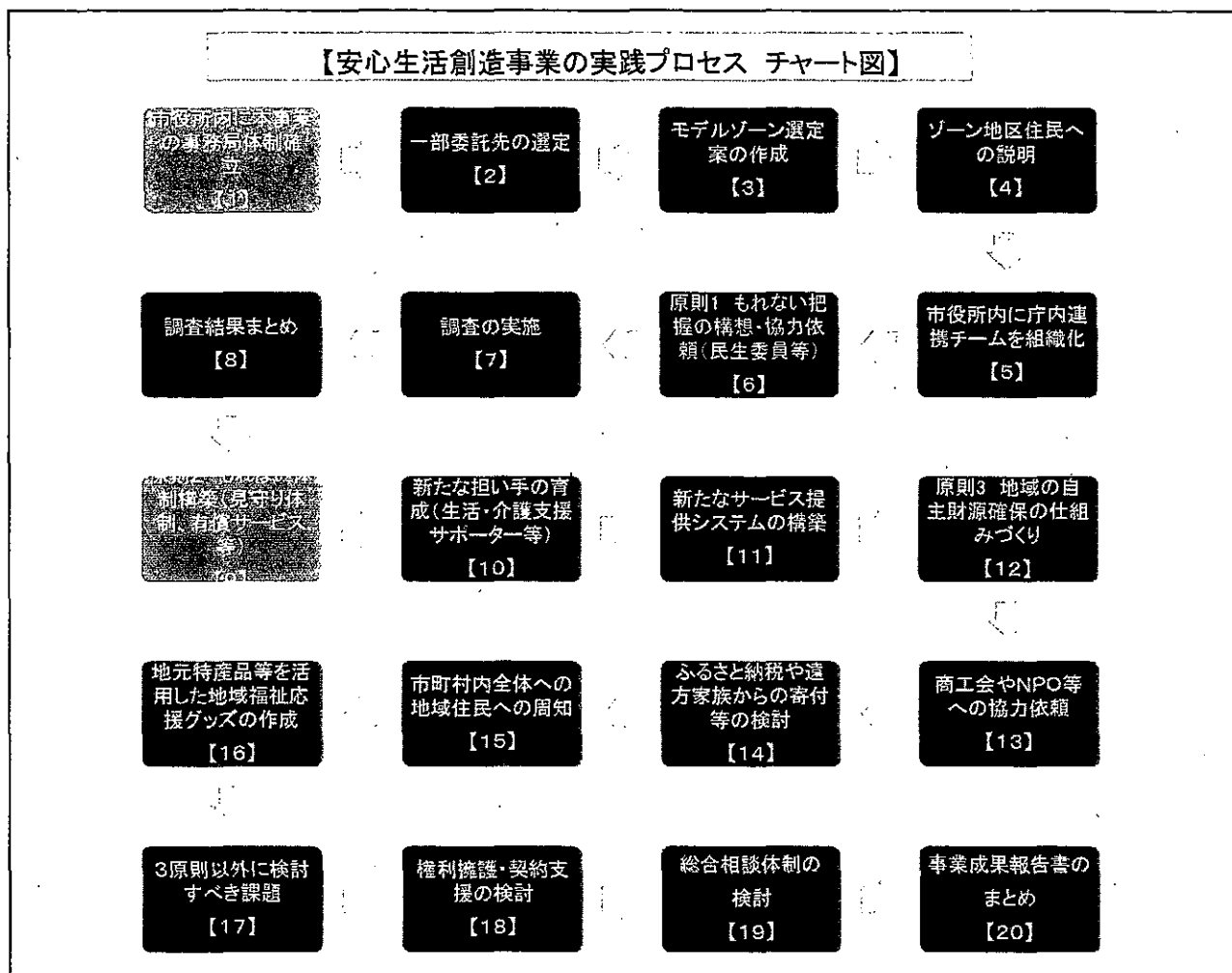
御記入ありがとうございました。

H24安心生活創造事業全国会議 人口規模別分科会事前アンケート

都道府県名	栃木県	市町村名	鹿沼市	所属ブロック	関東
人口(H24.3.31現在)	世帯数(H24.3.31現在)	高齢化率(H24.3.31現在)	ゾーン人口		
(人)	(世帯)	(%)	(人)		
101,751	36,803	23.5	101,751		

※昨年度末の地域福祉推進市町村連絡会議での事前アンケートと質問内容が重複している部分もありますがご容赦ください。

問1. 下記の実践プロセスのうち、これまでの3年間でうまく進んだ過程には○を、実行が難しかった過程には△を、実行できなかった過程には×をつけてください(複数回答可・チャート図通りの進行でなくても構いません)また、△や×の過程について、その具体的な内容や理由を下記にご記入ください。



【△や×の具体的な内容・理由】

過程番号	△/×	具体的内容・理由
1~9	○	
11	○	鹿沼シニアライフみまもり隊(378人)
12	▲	協同募金に一部活用
15	○	

問2. 3年間の取り組みの中で、重点的に取り組んだことは何ですか？下記に御記入ください。

問3. 下記の項目について、新規実施市町村へのアドバイスをお願いします。(複数回答可)

ア. ゾーンの設定の仕方(どのような地域特性に配慮して決めたか、規模)

市内、中山間地域など地域性を考慮した地域を5箇所選定し、先行開始した。

イ. 部局内の連携の仕方

隊員の報告を民生児童委員が行政に繋ぐシステムにすることで、通常の民児委員の業務であり、部内連携は容易

ウ. 関係機関、民間事業者との連携の仕方

現時点では社会福祉協議会や地域包括支援センターと連携している。

エ. 対象者・ニーズの把握のための住民アンケートの内容

民生委員が実施している、高齢者状況調査を基本としている。また、高齢者以外では、民生員が把握している見守り対象者など

オ. 基盤支援対象者台帳、マップの作成の仕方

カ. 個人情報取り扱い方

誓約書による

キ. 訪問員の養成のノウハウ

研修会等の開催や民生委員との連絡会などを実施

ク. 自主財源確保のためのアイデア

ケ. その他

※ このアンケートは人工規模別分科会のテーマ決定、参加希望の聴取及び意見交換等のための資料としても使用(公開)します。

※ 分科会への参加希望の聴取につきましてはテーマが決定し次第お知らせいたします。

御記入ありがとうございました。

【第9分科会】

テーマ：訪問員の養成ノウハウ

H24安心生活創造事業全国会議 人口規模別分科会事前アンケート

都道府県名	滋賀県	市町村名	大津市	所属ブロック	
人口(H24.3.1現在)	世帯数(H24.4.1現在)	高齢化率(H24.3.31現在)	ゾーン人口		
(人)	(世帯)	(%)	(人)		
340,339	138,919	20.9			

問1. 下記の実践プロセスのうち、現時点でうまく進んでいる過程には○を、実行が難しい過程には△を、実行できない過程には×をつけてください(複数回答可・チャート図通りの進行でなくても構いません) また、△や×の過程について、その具体的な内容や理由を下記にご記入ください。



【△や×の具体的内容・理由】

過程番号	△/×	具体的内容・理由
		(全体として9月補正予算が成立した後の実施となるため、10月から進みはじめています。)

問2. 安心生活創造事業を行うにあたり、重点的に取り組んでいること(予定も可)は何ですか？
下記に御記入ください。

・小学校区単位に組織されている学区社協の役員に対して、現在の活動状況や地域のニーズ、今後の夢についてのヒアリングを行っている。住民主体の活動を進めるうえで、地域リーダーの存在の大切さを痛感した。
・今後、自治会ごとに選任してもらっている福祉委員(1000名)を対象にアンケート調査を実施予定。
・本会で実施している心配ごと相談活動と地域での小地域福祉活動、相談機関の連絡会の実施を通して、総合相談事業を展開する。
・小学校区単位に組織されている学区社協の役員に対して、現在の活動状況や地域のニーズ、今後の夢についてのヒアリングを行っている。住民主体の活動を進めるうえで、地域リーダーの存在の大切さを痛感した。
・今後、自治会ごとに選任してもらっている福祉委員(1000名)を対象にアンケート調査を実施予定。

問3. 安心生活創造事業を行うにあたり、やり方がわからないこと・実施済み市町村へ聞いてみたいことを、◎・○で優先順位をつけて下記から選んでください。また下記以外にあれば「ケ. その他」に御記入ください。(複数回答可)

○ア. ゾーンの設定の仕方(どのような地域特性に配慮して決めたか、規模)

イ. 部局内の連携の仕方

ウ. 関係機関、民間事業者との連携の仕方

エ. 対象者・ニーズの把握のための住民アンケートの内容

オ. 基盤支援対象者台帳、マップの作成の仕方

○カ. 個人情報の取り扱い方

○キ. 見守りをするための支援する人(訪問員等)の養成のノウハウ

◎ク. 自主財源確保のためのアイデア

ケ. その他

問4. 安心生活創造事業への意気込み、厚生労働省への要望等、自由に御記入ください。

・中核都市であり、京都・大阪のベッドタウンとして人口増加中の津市は、地理的に南北に大変長く、高齢化が進む地域と、子育て世代が多く住む地域、田舎と新興住宅地など多様な地域性が混在し、福祉ニーズも複雑である。
・安心生活創造事業を通して、地域でのつながりづくり、地域で孤立している人を見守り、支えあう地域づくりを進めていきたい。また、民生委員児童委員の協力と、小学校区単位の学区社協の協力、福祉専門職の連携を通して、安心生活創造事業を進めたい。
・厚生労働省には、現在進められている生活困窮者の対策に力を入れてもらうとことに加えて、地域で不安定雇用で困っている人が多くいる実態から、国の社会政策である雇用保障、雇用対策に関係省庁と力を合わせてもらうように強く要望したい。これ以上の少子化を止めるためには、早急に若者の正規雇用の充実を行わないと、結婚できない層がますます増加することを懸念しています。

※ このアンケートは人工規模別分科会のテーマ決定、参加希望の聴取及び意見交換等のための資料としても使用(公開)します。

※ 分科会への参加希望の聴取につきましてはテーマが決定し次第お知らせいたします。

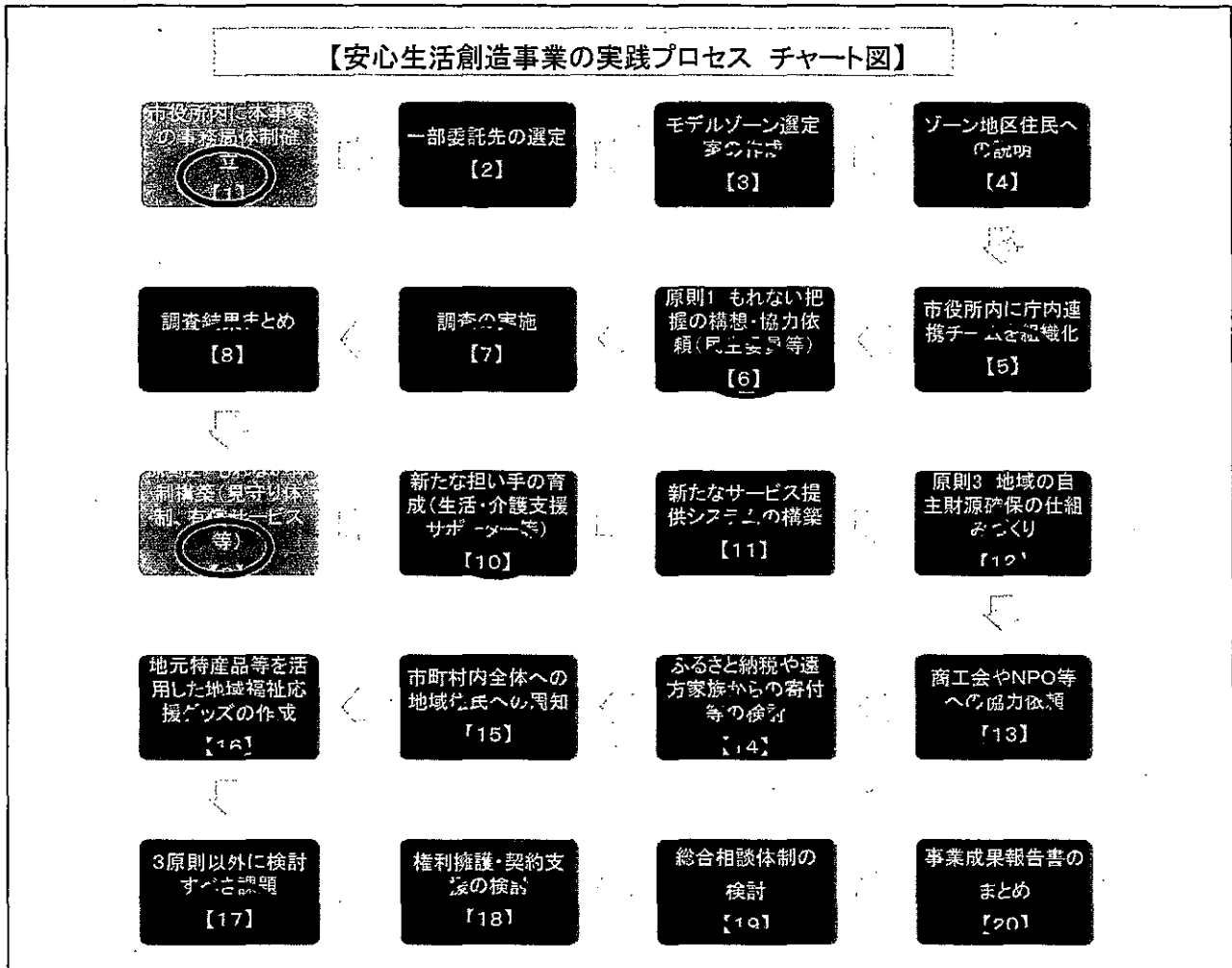
御記入ありがとうございました。

H24安心生活創造事業全国会議 人口規模別分科会事前アンケート

都道府県名	大阪府	市町村名	豊中市	所属ブロック	近畿ブロック
人口(H24.10.1現在)	世帯数(H24.10.1現在)	高齢化率(H24.10.1現在)	ゾーン人口		
(人)	(世帯)	(%)	(人)		
397,108	180,781	22.70%	397,108		

※昨年度末の地域福祉推進市町村連絡会議での事前アンケートと質問内容が重複している部分もありますがご容赦ください。

問1. 下記の実践プロセスのうち、これまでの3年間でうまく進んだ過程には○を、実行が難しかった過程には△を、実行できなかった過程には×をつけてください(複数回答可・チャート図通りの進行でなくても構いません)また、△や×の過程について、その具体的な内容や理由を下記にご記入ください。



【△や×の具体的な内容・理由】

過程番号	△/×	具体的な内容・理由
12	△	東日本大震災発生後に、募金箱を事業者へ設置したため、市民の意識が当該事業に向かず、募金を募ることが出来なかったと考えられる。
14	×	本市の基金の活用について検討を行った結果、福祉全般に使用することが出来るが、事業費や委託費といった内容に充当するよりも、施設の修繕や備品購入等に充てる方が適当であるとの結論に至ったため。

問2. 3年間の取り組みの中で、重点的に取り組んだことは何ですか？下記に御記入ください。

- ・見守り体制の構築(有償の見守り・安心コール・地域の見守り体制の拡大)
- ・ニーズの把握
- ・民間事業者等とのパートナーシップの構築
- ・利用者の要望に応じたサービス内容の充実

問3. 下記の項目について、新規実施市町村へのアドバイスをお願いします。(複数回答可)

ア. ゾーンの選定の仕方(どのような地域特性に配慮して決めたか、規模)

- ・北東部と南部の2圏域に限定して事業をスタート。共通して高齢化率が高くひとり暮らし高齢者が比較的多い地区を選定。地域特性を配慮した基準としては、人口流動の多いことによりコミュニティが安定しいく地区と人情味あふれご近所同士の助け合いがのこる地区を選定した。

イ. 部局内の連携の仕方

- ・要綱を設け、庁内連絡会を設置することで、幅広く現状を把握し知恵を出し合うことが出来る。

ウ. 関係機関、民間事業者との連携の仕方

- ・庁内会議をはじめ、学識経験者等が参画した推進委員会等を設置することで、情報の共有や知恵を出し合うことが出来る。

エ. 対象者・ニーズの把握のための住民アンケートの内容

- ・健康状態、日常生活の困りごとなどの質問項目により生活実態を把握することや福祉施策に結び付ける質問項目を設けてニーズの掘り起こしを行い、対象者の把握が進んだ。

オ. 基盤支援対象者台帳、マップの作成の仕方

- ・対象者のニーズ把握のなかで、当該事業の利用の意向確認だけに限らず、関係機関等が提供しているサービス等の意向確認もあわせて行うことで、ニーズ別の名簿を作成することが出来る。

カ. 個人情報の取り扱い方

- ・豊中市個人情報保護条例に基づき、事業を実施する。アンケート調査から地域福祉コーディネーターの訪問調査への移行については、アンケート調査において、連絡先など個人情報の提供の可否について確認する。また、その後の安心生活創造事業開始後において、他の事業・サービスを紹介する場合においても、そのつど個人情報の提供の可否の確認を行う。

キ. 訪問員の養成のノウハウ

- ・基礎講習(制度施策や事業)と時事研修の実施。
- ・訪問員のアンケート調査の実施。

ク. 自主財源確保のためのアイデア

- ・民間事業者を活用した募金箱の設置。

ケ. その他

- ・行政だけのアプローチではなく、社会福祉協議会をはじめ住民・企業等新しい公共の視点で支えるしくみづくりを構築することが必要です。

※ このアンケートは人工規模別分科会のテーマ決定、参加希望の聴取及び意見交換等のための資料としても使用(公開)します。

※ 分科会への参加希望の聴取につきましてはテーマが決定し次第お知らせいたします。

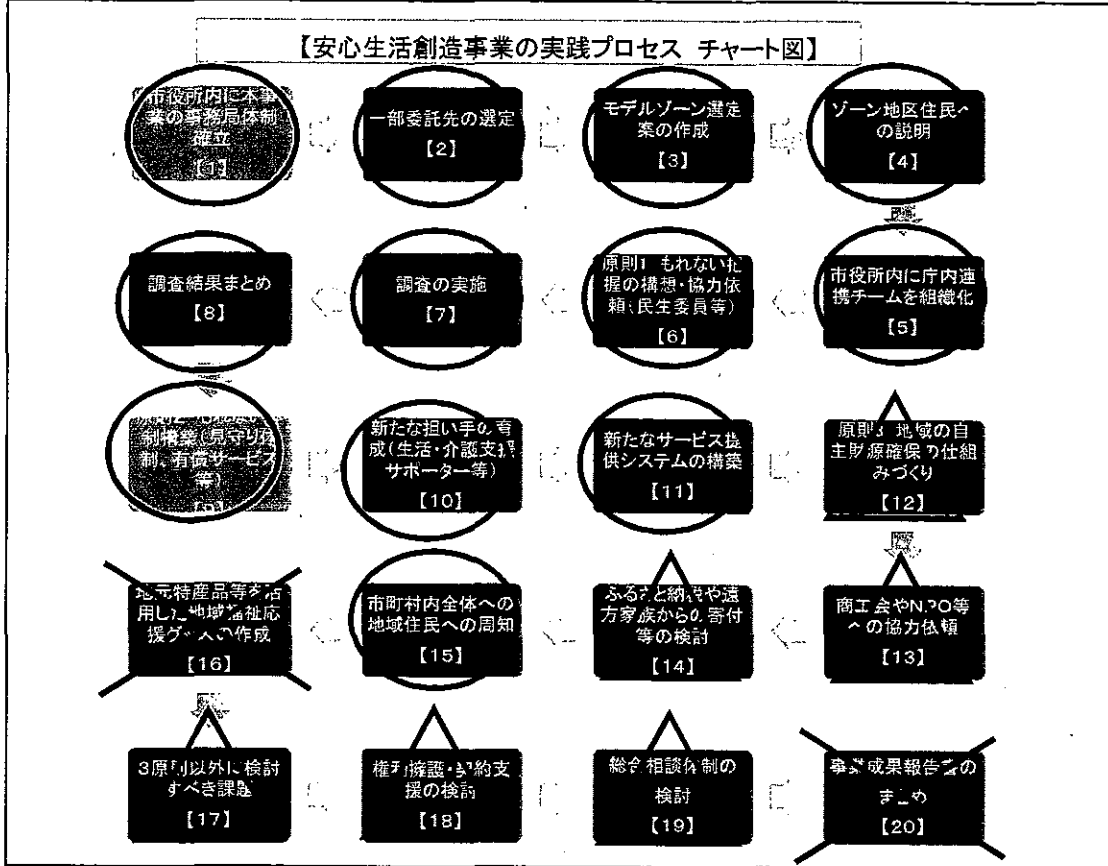
御記入ありがとうございました。

H24安心生活創造事業全国会議 人口規模別分科会事前アンケート

都道府県名	兵庫県	市町村名	尼崎市	所属ブロック	
人口(H24.4.1現在)	世帯数(H24.4.1現在)	高齢化率(H24.4.1現在)	ゾーン人口		
(人)	(世帯)	(%)	(人)		
457,216	217,786	23.4	約98,000人		

※昨年度末の地域福祉推進市町村連絡会議での事前アンケートと質問内容が重複している部分もありますがご容赦ください。

問1. 下記の実践プロセスのうち、これまでの3年間でうまく進んだ過程には○を、実行が難しかった過程には△を、実行できなかった過程には×をつけてください(複数回答可・チャート図通りの進行でなくても構いません)また、△や×の過程について、その具体的な内容や理由を下記にご記入ください。



【△や×の具体的な内容・理由】

過程番号	△/×	具体的内容・理由
12	△	見守り活動を行う中で出てきた対象者のニーズ(電球の交換等日常支援、買い物支援等)に対して一部指定地区において有償サービスの導入を検討しており、今後このサービスの有効性等について検証する。
13	△	見守り推進員及び協力員によって構成され、各地区ごとに設置されている地区見守り安心委員会(以下、「安心委員会」という。)にNPO団体が参画している地区が一部あるが、地域性等により全体に参画するには至っていない。
14	△	見守り活動の拡大を目指している現状では、見守り希望者の家族からの寄付金を募るのは難しく、今後見守り地区が全市的な広がりを見せ、地域に定着していく中で検討を行う。 なお、本市では条例で市民福祉振興基金の設置しており、ふるさと納税の一部を基金収入として受け入れている。また、基金の収益は社会福祉協議会の事業補助等地域福祉活動への支援として活用している。
16	×	現在、牛乳販売店等の配達業者との連携は図れているが、地元商店等とのタイアップや協賛にはまだ及んでおらず、今後見守り活動の拡大と併せて模索していく。
17	△	東日本大震災後、災害時要援護者支援の必要性が認識され始めたのを踏まえ、本事業を軸とした災害時における要援護支援について検討を進めている。

18	△	市民後見人講座を開催するなど、一定の広がりは見せつつある。
19	△	日々の活動での疑問等については、支部社協で相談を受け付けている。また、見守り活動を通じて見えてきた地域内における課題を地域で検討する手段として、現地域福祉会議の立ち上げを進めている。
20	×	平成21年から23年までの3年間実施した中での課題や問題点、良かった点等について整理を行ったが、報告書の作成までには至っていない。

問2. 3年間の取り組みの中で、重点的に取り組んだことは何ですか？下記に御記入ください。

重点的に取り組んだこと：ゾーン数の拡大

地域における見守り活動に対する機運の高まりや、コミュニティ活動の活発さ等を勘案し、市内全体に当事業が広がるよう地域に呼びかけを行った。

問3. 下記の項目について、新規実施市町村へのアドバイスをお願いします。(複数回答可)

ア. ゾーンの設定の仕方(どのような地域特性に配慮して決めたか、規模)

尼崎市の地域特性である社会福祉協議会が自治会機能を有している性質を活かし、日々の地域活動が盛んな圏域のところから働きかけを行い、事業実施の同意を得る中で、順次選定を行った。また、社会福祉協議会に配置している地域福祉専門員の活動を通じて地域に見守り活動の必要性・重要性等の浸透を図った。

イ. 部局内の連携の仕方

H21年度の事業実施前に検討会議を庁内で設置し、関係課との意見交換及び今後の方向性について議論を行った。

ウ. 関係機関、民間事業者との連携の仕方

市内の新聞配達店及び牛乳販売店と、見守り協定を締結し、地域での見守り活動と併せて重層的な見守りを実施している。また全てのゾーンで地域包括支援センターと連携しており、一部NPO団体が参画しているゾーンもある。

エ. 対象者・ニーズの把握のための住民アンケートの内容

平成21年度の事業実施前に全市一斉のアンケート調査を行い、潜在的なニーズの把握に努めた。またゾーンに指定された地区ごとに地区内に居住する全対象者に対して協力員及び推進員が全戸訪問を行い、見守り希望調査を行っている。

オ. 基盤支援対象者台帳、マップの作成の仕方

行政から、住民基本台帳をもとにゾーン指定地区ごとに対象者リストを作成し、委託先である尼崎市社会福祉協議会に提供し、そのデータを元に対象者の住所・氏名が記載されたリストを安心委員会に提供している。

カ. 個人情報の取り扱い方

見守り協力員若しくは推進員に選任される際に、守秘義務についての遵守事項同意書を提出してもらうとともに、市長からの委嘱を行うことにより、要綱で守秘義務を課す。また、安心委員会発足時に個人情報の取り扱いについて研修を行い、注意喚起している。

キ. 訪問員の養成ノウハウ

概ね2ヶ月に1回開催されている安心委員会内の研修や実際の活動に際して直面した事例についての検討を行うことにより、課題や日々の取組における問題への共通認識をもつ。また、市全体として活動者が参加する取り組み発表会や意見交換会の実施を行い、その際に地域包括支援センター等の専門機関からの説明も実施し、資質の向上を図った。

ク. 自主財源確保のためのアイデア

見守り活動を行う中で出てきた対象者のニーズ(電球の交換等日常支援、買い物支援等)に対して一部指定地区において有償サービスの導入を検討しており、今後このサービスの有効性等について検証する。

ケ. その他

※ このアンケートは人工規模別分科会のテーマ決定、参加希望の聴取及び意見交換等のための資料としても使用(公開)します。

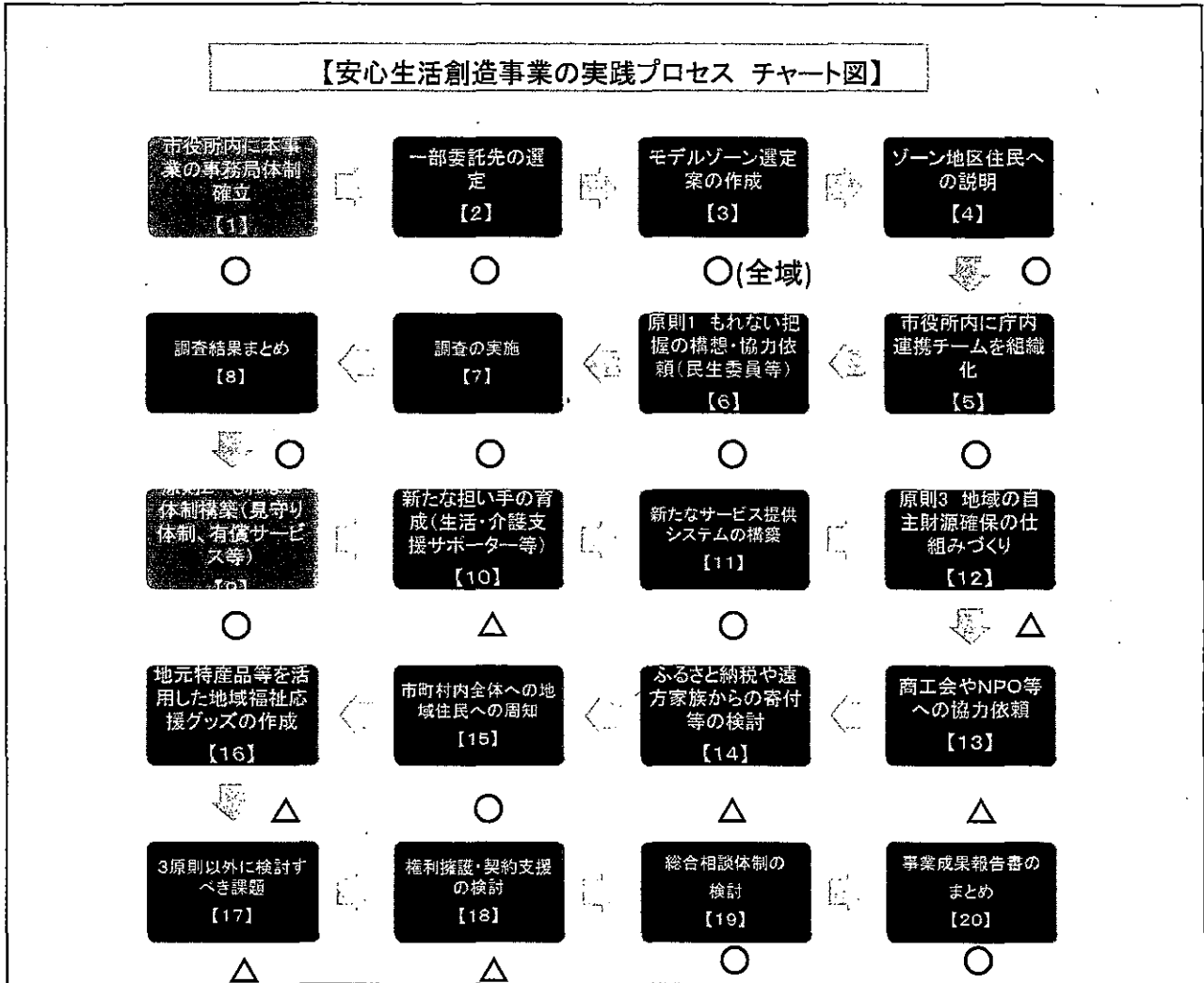
※ 分科会への参加希望の聴取につきましてはテーマが決定し次第お知らせいたします。

御記入ありがとうございました。

H24安心生活創造事業全国会議 人口規模別分科会事前アンケート

都道府県名	愛媛県	市町村名	松山市	所属ブロック	中国・四国
人口(H24.10.1現在)	世帯数(H24.10.1現在)	高齢化率(H24.10.1現在)	ゾーン人口		
(人)	(世帯)	(%)	(人)		
518,085	238,537	22.7	518,085		

問1. 下記の実践プロセスのうち、現時点でうまく進んでいる過程には○を、実行が難しい過程には△を、実行できない過程には×をつけてください(複数回答可・チャート図通りの進行でなくても構いません)また、△や×の過程について、その具体的な内容や理由を下記にご記入ください。



【△や×の具体的な内容・理由】

過程番号	△/×	具体的な内容・理由
10	△	松山市社会福祉協議会で実施している地域福祉サービス事業における協力会員の育成等。
12	△	利用者負担の見直しや共同募金の活用検討。
13	△	地域全体で支援を必要とする人々を支えるため、今後、商工会議所やNPO等への協力依頼を検討。

問2. 安心生活創造事業を行うにあたり、重点的に取り組んでいること(予定も可)は何ですか？
下記に御記入ください。

漏れのない独居高齢者の把握を行い、支援が必要な独居高齢者を地域・行政さらには民間事業者等を加えた「松山市見守りネットワーク」に繋げる点。

問3. 安心生活創造事業を行うにあたり、やり方がわからないこと・実施済み市町村へ聞いてみたいことを、◎・○で優先順位をつけて下記から選んでください。また下記以外にあれば「ケ. その他」に御記入ください。(複数回答可)

- ア. ゾーンの設定の仕方(どのような地域特性に配慮して決めたか、規模)
- イ. 部局内の連携の仕方
- ウ. 関係機関、民間事業者との連携の仕方
- エ. 対象者・ニーズの把握のための住民アンケートの内容
- オ. 基盤支援対象者台帳、マップの作成の仕方
- カ. 個人情報の取り扱い方
- キ. 見守りをするための支援する人(訪問員等)の養成のノウハウ ○
- ク. 自主財源確保のためのアイデア ◎
- ケ. その他

特になし

問4. 安心生活創造事業への意気込み、厚生労働省への要望等、自由に御記入ください。

これまでにモデル事業を実施された他都市の取組を参考にさせていただき、本市でも実施可能なものについては、取り組んでいきたいと考えています。
当日は、よろしくお願いします。

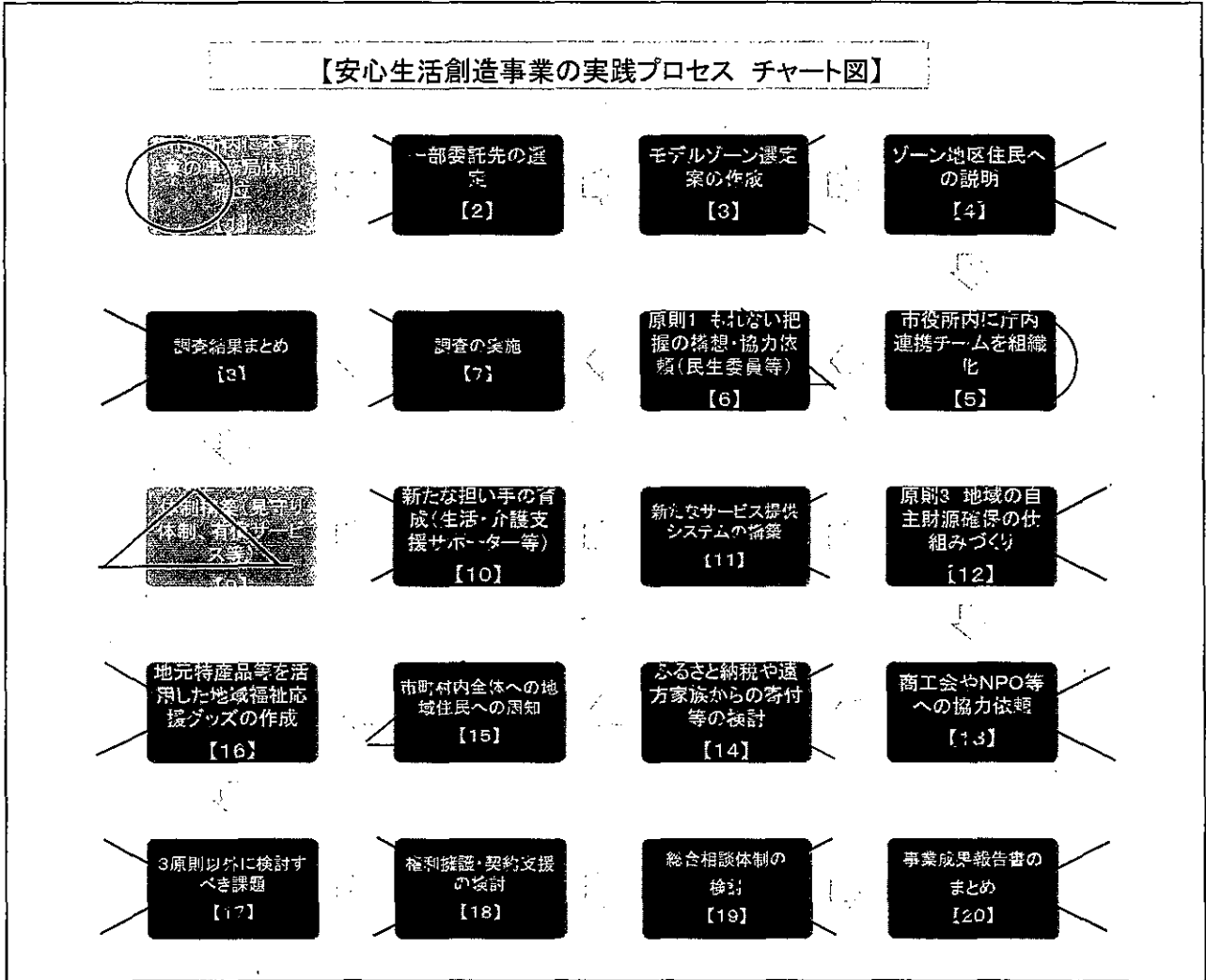
※ このアンケートは人工規模別分科会のテーマ決定、参加希望の聴取及び意見交換等のための資料としても使用(公開)します。

※ 分科会への参加希望の聴取につきましてはテーマが決定し次第お知らせいたします。
御記入ありがとうございました。

H24安心生活創造事業全国会議 人口規模別分科会事前アンケート

都道府県名	埼玉県	市町村名	さいたま市	所属ブロック	
人口(H24.10.1現在)	世帯数(H24.10.1現在)	高齢化率(H24.10.1現在)	ゾーン人口		
(人)	(世帯)	(%)	(人)		
1,243,826	534,529	19.89			

問1. 下記の実践プロセスのうち、現時点でうまく進んでいる過程には○を、実行が難しい過程には△を、実行できない過程には×をつけてください(複数回答可・チャート図通りの進行でなくても構いません)また、△や×の過程について、その具体的な内容や理由を下記にご記入ください。



【△や×の具体的な内容・理由】

過程番号	△/×	具体的内容・理由
	△/×	平成24年度(初年度)については、自らSOSのサインを出せない、出さない、出したくないという住民票の無い方に対して、困ったことを安心して相談できる窓口を周知するため、リーフレットを全戸配布した。
		その後の取り組みとして、要支援者を早期に発見・通報するため、通報のガイドラインを作成し、ライフライン等事業者が訪問先で異変に気付いた際、市への通報に協力する協定書を10月3日に締結をしたところである。

問2. 安心生活創造事業を行うにあたり、重点的に取り組んでいること(予定も可)は何ですか？
下記に御記入ください。

平成25年度の取り組みとして、通報を受けた対象者の情報収集や訪問など安否確認をする専属の職員(再任用)を配置する。また、通常は民生委員や自治会と連携し、高齢者世帯を中心に市内を循環・訪問することで、要支援者を早期に発見し、孤立死の防止を図る。

問3. 安心生活創造事業を行うにあたり、やり方がわからないこと・実施済み市町村へ聞いてみたいことを、◎・○で優先順位をつけて下記から選んでください。また下記以外にあれば「ケ. その他」に御記入ください。(複数回答可)

ア. ゾーンの設定の仕方(どのような地域特性に配慮して決めたか、規模)

イ. 部局内の連携の仕方

ウ. 関係機関、民間事業者との連携の仕方

エ. 対象者・ニーズの把握のための住民アンケートの内容

オ. 基盤支援対象者台帳、マップの作成の仕方

◎カ. 個人情報の取り扱い方

○キ. 見守りをするための支援する人(訪問員等)の養成のノウハウ

ク. 自主財源確保のためのアイデア

ケ. その他

問4. 安心生活創造事業への意気込み、厚生労働省への要望等、自由に御記入ください。

※ このアンケートは人工規模別分科会のテーマ決定、参加希望の聴取及び意見交換等のための資料としても使用(公開)します。

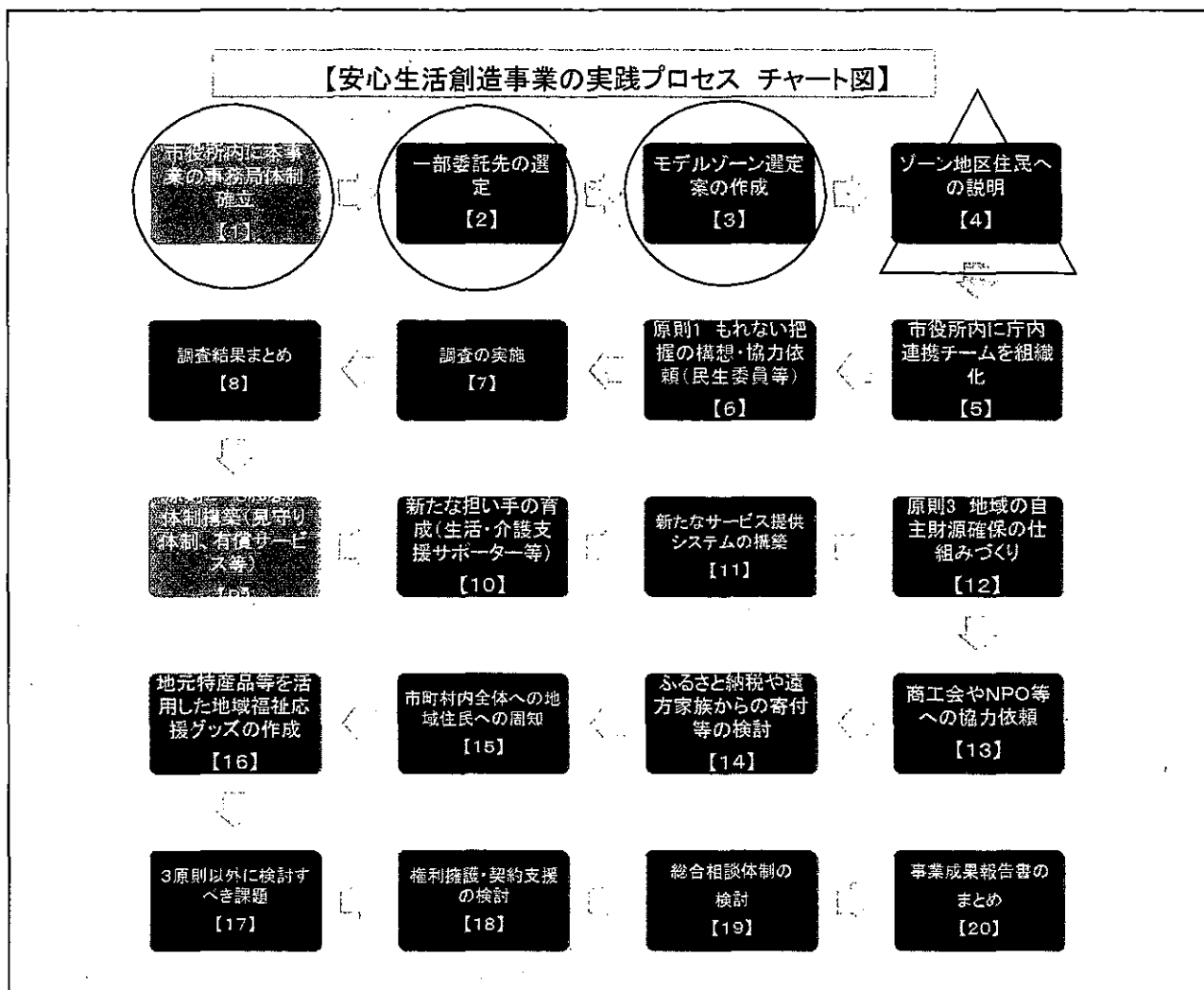
※ 分科会への参加希望の聴取につきましてはテーマが決定し次第お知らせいたします。

御記入ありがとうございました。

H24安心生活創造事業全国会議 人口規模別分科会事前アンケート

都道府県名	神奈川県	市町村名	川崎市	所属ブロック	
人口(H24.10.1現在)	世帯数(H24.10.1現在)	高齢化率(H24.6.30現在)	ゾーン人口		
(人)	(世帯)	(%)	(人)		
1,439,164	672,392	17.23			

問1. 下記の実践プロセスのうち、現時点でうまく進んでいる過程には○を、実行が難しい過程には△を、実行できない過程には×をつけてください(複数回答可・チャート図通りの進行でなくても構いません)また、△や×の過程について、その具体的な内容や理由を下記にご記入ください。



【△や×の具体的な内容・理由】

過程番号	△/×	具体的な内容・理由
4	△	現時点では、自治会役員・民生委員等の見守りの担い手となりえる住民に事業内容の説明している段階である。

問2. 安心生活創造事業を行うにあたり、重点的に取り組んでいること(予定も可)は何ですか？
下記に御記入ください。

地域支え合いマップづくり講座の充実

問3. 安心生活創造事業を行うにあたり、やり方がわからないこと・実施済み市町村へ聞いてみたいことを、◎・○で優先順位をつけて下記から選んでください。また下記以外にあれば「ケ. その他」に御記入ください。(複数回答可)

ア. ゾーンの設定の仕方(どのような地域特性に配慮して決めたか、規模)

イ. 部局内の連携の仕方

ウ. 関係機関、民間事業者との連携の仕方

エ. 対象者・ニーズの把握のための住民アンケートの内容

オ. 基盤支援対象者台帳、マップの作成の仕方

カ. 個人情報の取り扱い方

キ. 見守りをするための支援する人(訪問員等)の養成のノウハウ

ク. 自主財源確保のためのアイデア

ケ. その他

買い物支援の実施方法、アイデアなど

問4. 安心生活創造事業への意気込み、厚生労働省への要望等、自由に御記入ください。

※ このアンケートは人工規模別分科会のテーマ決定、参加希望の聴取及び意見交換等のための資料としても使用(公開)します。

※ 分科会への参加希望の聴取につきましてはテーマが決定し次第お知らせいたします。

御記入ありがとうございました。

【第 10 分科会】

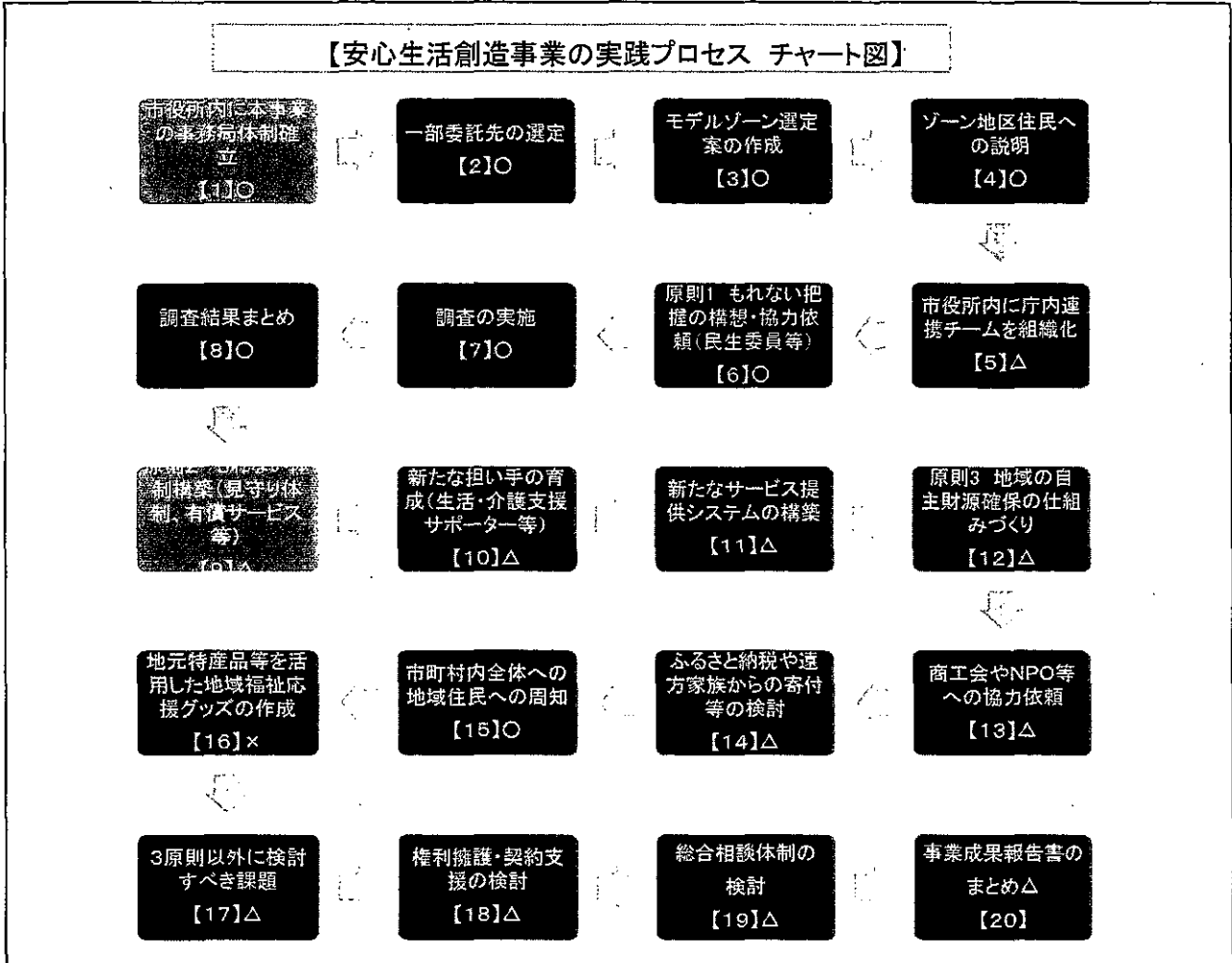
テーマ：自主財源確保のためのアイデア

H24安心生活創造事業全国会議 人口規模別分科会事前アンケート

都道府県名	北海道	市町村名	福島町	所属ブロック	北海道・東北
人口(H24.9.末 現在)	世帯数(H24.9.末 現在)	高齢化率(H24.9.末 現在)	ゾーン人口		
(人)	(世帯)	(%)	(人)		
4,954	2,327	38.31	4,954		

※昨年度末の地域福祉推進市町村連絡会議での事前アンケートと質問内容が重複している部分もありますがご容赦ください。

問1. 下記の実践プロセスのうち、これまでの3年間でうまく進んだ過程には○を、実行が難しかった過程には△を、実行できなかった過程には×をつけてください(複数回答可・チャート図通りの進行でなくても構いません)また、△や×の過程について、その具体的な内容や理由を下記にご記入ください。



【△や×の具体的な内容・理由】

過程番号	△/×	具体的な内容・理由
【5】	△	3年間で構築した調査台帳などをもとに、H24～25年の間で組織化を図る。
【9】【14】	△	【9】については、有償サービスについては利用者がなかった。【10】については、再度H24～25年度の間で再研修会を実施し養成したい。【11】～【14】については3年間で協議したが構築までには至らなかったため、H24～25の間で再度検討していきたい。
【16】	×	ほかの事業の進行をふまえながら、H24～25年の間で応援グッズを作成したい
【17】【20】	△	H24～25年の間で再度検討し事業の推進を図りたい。

問2. 3年間の取り組みの中で、重点的に取り組んだことは何ですか？下記に御記入ください。

対象者の見守り台帳の作成及びリアルタイムな調査。並びに見守りキットの配布活用。

問3. 下記の項目について、新規実施市町村へのアドバイスをお願いします。(複数回答可)

ア. ゾーンの設定の仕方(どのような地域特性に配慮して決めたか、規模)

市町村の規模に応じてゾーン設定をしたほうが良いと思う。

イ. 部局内の連携の仕方

安心創造事業の周知の徹底並びに重要性についてを考慮した協議が必要。

ウ. 関係機関、民間事業者との連携の仕方

安心創造事業の周知の徹底並びに重要性についてを考慮した協議が必要。

エ. 対象者・ニーズの把握のための住民アンケートの内容

オ. 基盤支援対象者台帳、マップの作成の仕方

聞き取り調査の重要性、並びに民生委員等との連携が必要と考える。

カ. 個人情報の取り扱い方

キ. 訪問員の養成のノウハウ

ク. 自主財源確保のためのアイデア

ケ. その他

※ このアンケートは人工規模別分科会のテーマ決定、参加希望の聴取及び意見交換等のための資料としても使用(公開)します。

※ 分科会への参加希望の聴取につきましてはテーマが決定し次第お知らせいたします。
御記入ありがとうございました。